

城北中学校の「外構工事」

現状では、改築工事がまだ終わっていません

相談したいことが・・・

城北中学校から、「ご相談したいことがあるので」という連絡があり、5月24日、訪問しました。校長室に、学校後援会の幹部やPTA役員、それに市議会議員が参集しました。

次のような話でした。

新校舎が建設されたが、外構工事が残されている。早急の工事を市教育委員会にお願いしてきた。当初はほんの少しだけの工事計画だった。話し合いを進めてきた結果、少しは前進したが、このままでは今年度で終わらない。秋の運動会ができるかどうか、授業にも差しさわりがあるし、20年11月の竣工式に間に合うのかも心配だ。力を貸していただきたい。

いつまで復旧工事でしょう

話を聞いてまず最初に感じたのは、「外構工事」というものの、その大部分は新校舎建設に伴う復旧工事と建設工事そのものではないかということです。

グラウンドの整備が必要だというのですが、プレハブの仮校舎や旧校舎が建っていたのを撤去したままになっていて、使えない状態です。凹地になっていて、溜まった水をポンプで汲み出していました。

防球ネットは一部だけ設置予定。

工事のために移動していた庭石などが元に戻されていない。

建設機械が入って荒らしたところがそのままになっている。

「犬走り」が作られていない。

排水溝の点検口が飛び出したまま。

旧国道側には、工事用フェンスがそのままになっています。

生徒玄関までが砂利道です。それは19年度に舗装するというのですが、この砂利道と校舎の間は20年度以降

に「植栽」することになっています。ところが植栽部分は建設時、「土砂改良」ということでコンクリートを混ぜてある。これを取り除いて植栽するためには、せつかくの舗装を痛めつけて

コンクリートを取り除かなければならない。

200台分以上必要な自転車置き場

が、数十台分しか整備されず、あとは雨ざらし。

ムダ使いではないですか

これらはみんな、復旧工事でしょう。

このように建設工事の一部や工事に伴う復旧工事を、「外構工事」と称して別

発注すれば、時間もかかるし、費用もかかることになります。

他にも建設工事はたくさんありますが、こんな発注の仕方をしていては、たまたまものではありません。ムダ使いそのものだと思います。

学校側から話を聞いて、みなさん

いちように驚いていました。

28日、議員団

としても同校を訪

問し、話を聞きました。



オドリコソウ
東本町5丁目にて

日本共産党上越市議会議員 杉本敏宏の

市政レポート

2007年6月3日 146
発行 杉本敏宏事務所
上越市東本町5丁目1番38号
TEL 025(524)3787 FAX 025(524)3832